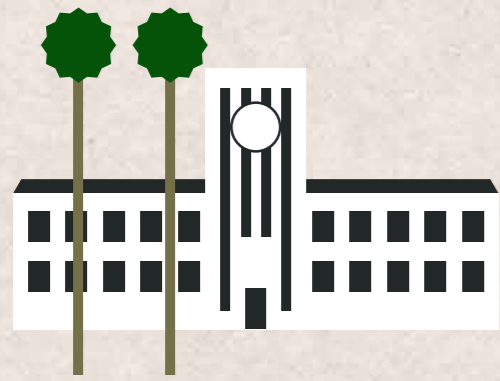


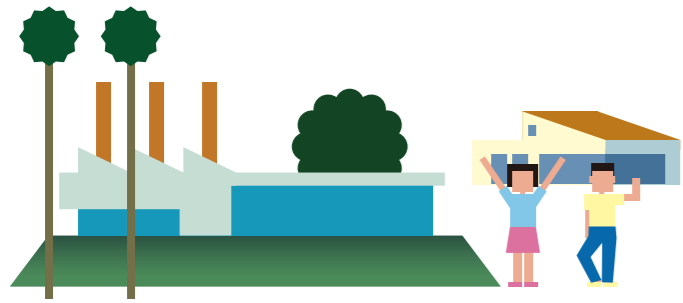
「働く喜び調査」 7年間の報告書

15歳～64歳の働く男女約5,000人～1万人を対象にした
「働くことを通して、いま何を感じているのか？」を把握するための
7年間の独自調査(2013年より、年1回実施)から
見えてきた事実を、ご紹介します。



調査概要

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
調査対象エリア				全 国			
調査対象者				15歳～64歳の男女個人、働いている人(就業形態問わず)			
調査手法				インターネットモニター調査(スクリーニング・本調査を一本で実施)			
標本設計				全国の15～64歳の就業者を母集団とし、 性×年代(10歳刻み)×就業形態(3区分)×居住エリア(4エリア)で母集団構成に合うように回収 <small>※母集団のデータソース:総務省統計局「労働力調査」(平成24年～平成30年)</small>			
調査期間	2013年 12月12日 ～12月17日	2014年 12月11日 ～12月17日	2015年 12月17日 ～12月21日	2016年 12月15日 ～12月21日	2017年 12月14日 ～12月19日	2018年 12月13日 ～12月17日	2019年 12月12日 ～12月17日
サンプル数	11,264s	11,839s	5,503s	5,583s	5,624s	6,983s	5,467s
調査ボリューム <small>※(株)インテージの 設問カウント方式による</small>	89問	105問	65問	70問	83問	91問	84問



Summary

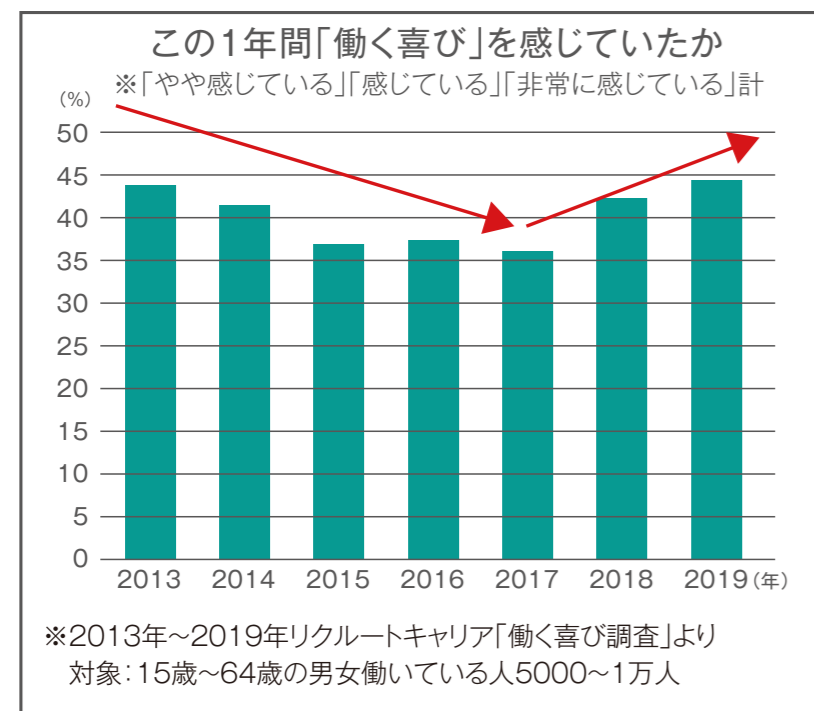
「働く喜び」も「望ましい働き方」も

企業から与えられるものではなく、自分で掴む時代へ

2019年の「働く喜び」は、調査史上最多の44.5%

そもそも働く上で、「働く喜び」を必要としている人はどれくらいいるのか?2019年12月、リクルートキャリアが日本で働く15歳~64歳の働く男女約5,000人に調査をした結果、「働く喜び」を必要としている人は88.2%と約9割近かったものの、実際にこの1年間「働くことに喜びを感じていた人」は44.5%で、就業者全体のうち半数以下という状況でした。

しかし、いま「働く」を取り巻く環境は少しずつ好転し始めており、2013年より5年連続で減少傾向にあった「働く喜び」を感じている人の割合は2017年に底を打ち、2017年(36.1%)→2018年(42.6%)→2019年(44.5%)と回復の兆しが見えてきており、2019年は調査史上最多の結果となっています。



働いている人たちが、具体的にどのような事実に対して喜びを感じているのか?を分析した結果、人々が働く喜びを感じている「事実」は「収入」「信頼関係」「学

び・成長」「役割・居場所」「快適な環境」「お客様」「社会的影響」の主に7因子に分類されることがわかっていますが、中でも「快適な環境」であるという事実に喜びを感じている人が多く、たとえば「収入」よりも「快適な環境」であるかどうかのほうが、働く喜びに影響を与えています。

また、2015年からの経年変化を見ると、最も増加傾向にあるのも「快適な環境」でした。

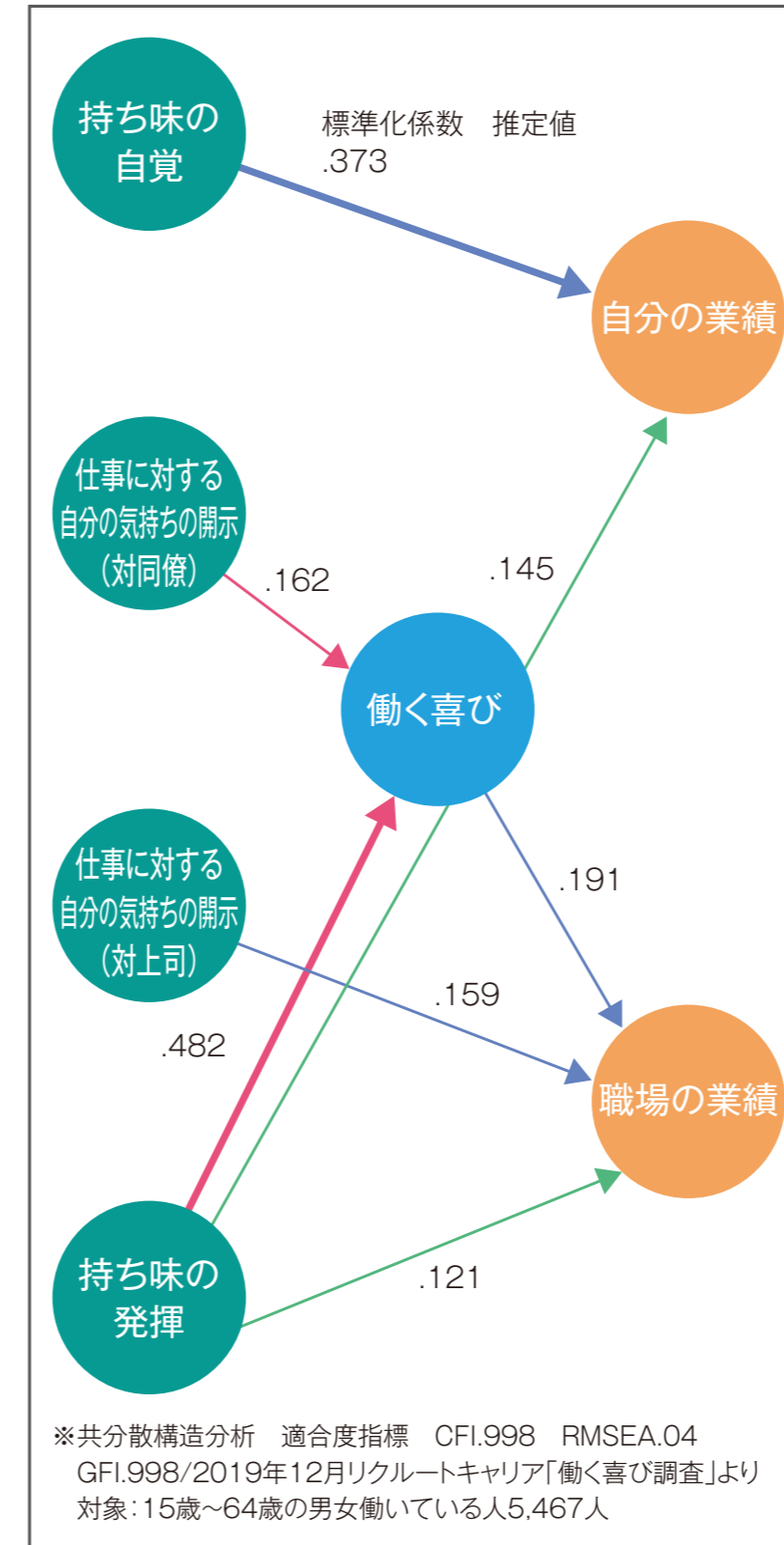
約7割の人が、「働く喜び」を自分で増やせると感じている

「働く喜び」を自分で増やせると思う人は73.2%で、実際に「働く喜び」が以前よりも増えた人は全体の15%でした。また、「働く喜び」の増加に影響している主な要因は「自己成長」「仕事内容の変化」「収入の変化」「先輩・同僚とのコミュニケーション」「働き方の変化」「上司とのコミュニケーション」であることがわかりました。

今の環境の中で、自分で「働く喜び」を増やすポイントは

- ①自分の持ち味を生かすこと
- ②「仕事に対する自分の気持ち」を同僚に開示すること

では、いま自分が置かれている環境の中で、自分で「働く喜び」を増やそうとした時には、いったい何に注力すればよいのか? 自分自身が関与できる要因と「働く喜び」の関係性を見てみると、「仕事に対する自分の気持ち」を職場の同僚に対して開示することが(上司に開示するよりも)「働く喜び」に影響しており、さらには「職場の業績」にもプラスの影響を与えることがわかり



ました。また、現在の仕事の中で、自分ならではの持ち味を生かすことができているかどうか、「働く喜び」に強く影響しています。

具体的には、職場の同僚に対して以下のような話をしているかどうか「働く喜び」に影響しています。

- 仕事における自分の強みと弱みについて
- やりがいを感じる仕事について
- 仕事ぶりを他人(上司、同僚、夫・妻など)から賞賛されたときの自分の気持ちについて
- 現在、興味を持って勉強していることについて
- 現在持っている目標や将来の希望について
- 生きがいや充実感を感じることにについて
- 余暇の過ごし方について
- 自分が趣味としていることについて

中でも、「やりがいを感じる仕事について」同僚に自己開示することは、職場において自分自身の持ち味を発揮しやすくなる傾向があるようです。

多様化する「それぞれの望ましい働き方」

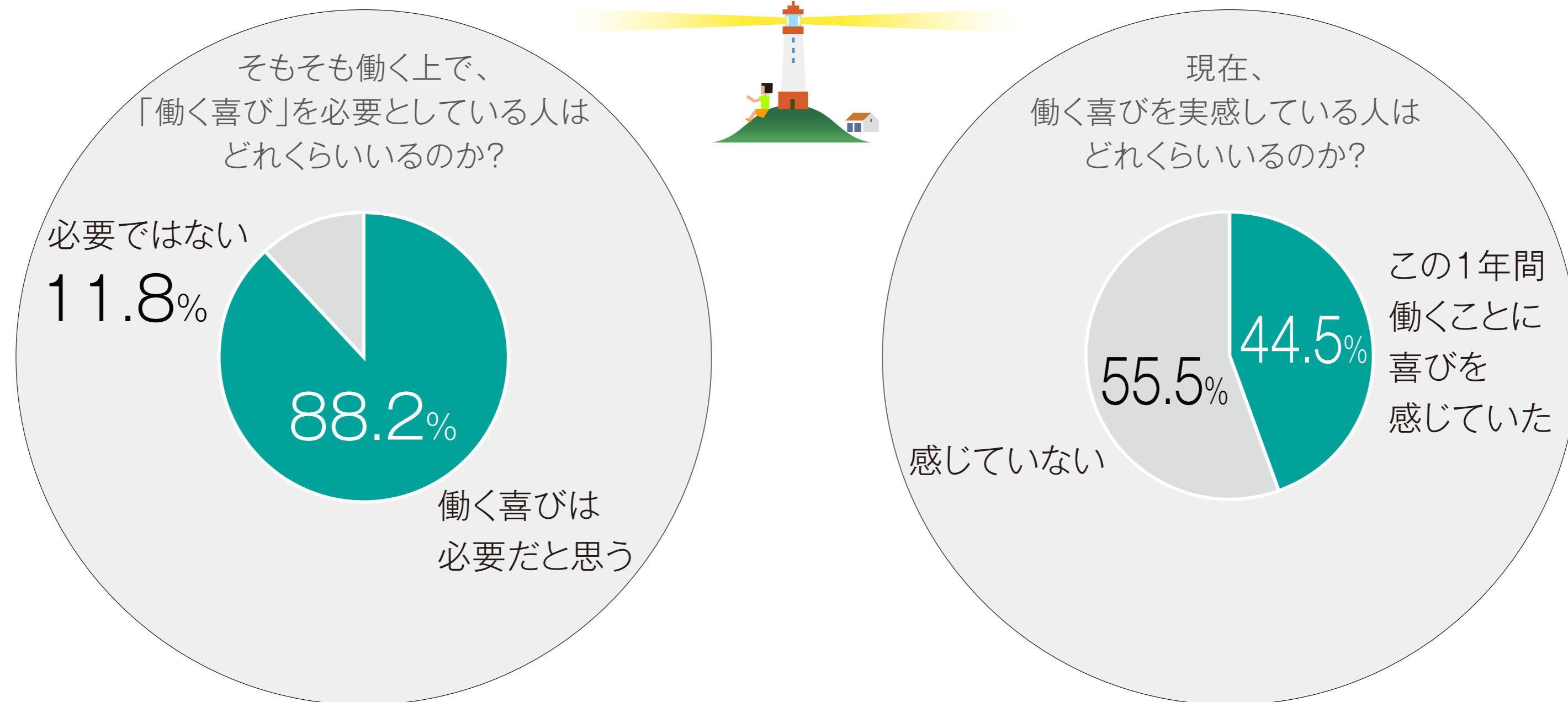
現在「自分の望ましい働き方ができている」人は47%で、2018年の43.2%から増加。働く場所や時間など、個人が望ましいと感じる働き方が多様化しているという事実も見えてきています。かつて日本が成長期であった頃は、例えば「高年収であること」「大企業で働くこと」「正社員で働くこと」「出世を目指すこと」を是とする画一的な共同幻想が存在しましたが、成熟化社会となった今では、人生における「働く」というものの重みも人それぞれ違ってきているようです。実際に会社に対して、「自分が希望する勤務条件の相談・交渉をしたことがある」人は、就業者全体のうち26.5%で、約4人に1人が「自分の望ましい働き方」を獲得するための勤務条件の相談・交渉をしており、2018年の22.2%より増加。「企業に従う」「みんな同じ」ではなく、「自分で選ぶ」「みんな違っていい」時代へ、今まさに切り変わろうとしています。

Report①

「働けたらそれでいい？」or「どうせ働くななら、喜びを感じたい？」

そもそも働く上で、「働く喜び」を必要としている人はどれくらいいるのでしょうか？

2019年12月、リクルートキャリアが日本で働く約5500人に調査をした結果、「働く喜び」を必要としている人は88.2%でした。やはり、人生の多くを共にする「働く」という営みには「喜び」が不可欠であると、約8割の人が思っているものの、実際にこの1年間「働くことに喜びを感じていた人」は44.5%で、就業者全体のうち半数以下という状況でした。8割の人が「働く喜びは必要」と思っているのに、6割弱の人が「働く喜びを感じていない」社会。しかし、いま「働く」を取り巻く環境は少しずつ好転し始めているようです。

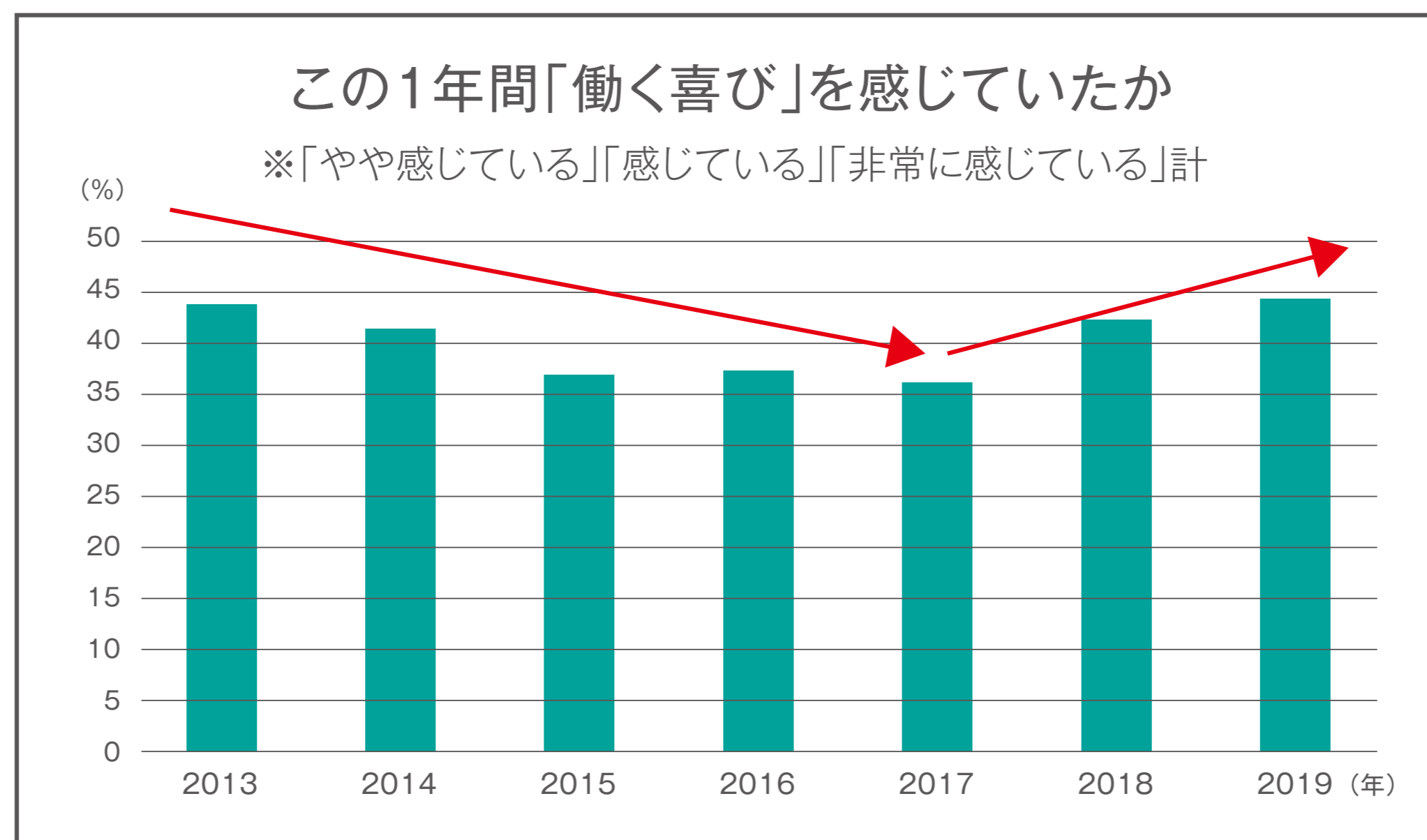
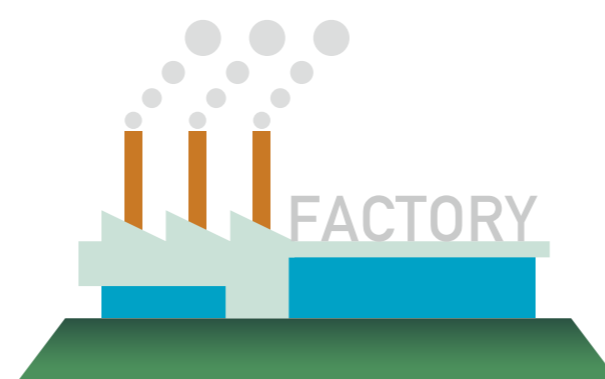


※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人5,467人

Report②

2年前から、世の中の「働く喜び」は増加中

日本では、働く喜びを実感している人が2013年より5年連続で減少傾向にありましたが、2017年に底を打ち、2017年(36.1%)→2018年(42.6%)→2019年(44.5%)と回復の兆しが見えてきており、2019年は調査史上最多の結果となっています。

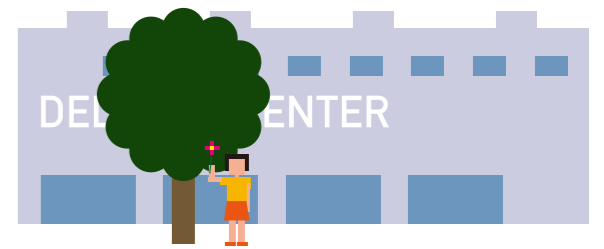


※2013年～2019年リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人5000～1万人

Report③ 2017年以降「働き方(改革)」への意識が高まる

働くと聞いて
思い浮かぶ
言葉は?

「働く」に関する意識は年々変化し、2013年以降は「ブラック企業」「過労死」など「働く」に対するネガティブな印象が浮上していましたが、回復に向かう2017年以降は「働き方(改革)」「ワークライフバランス」への意識が高まっています。



2013年 n=11,264

順位	ワード	件数
1	報酬	2,231
2	生活	1,092
3	お金を稼ぐ為の手段	717
4	仕事・仕事がある	600
5	生きる・生きていく	484
6	大変	413
7	生きがい	297
8	体を動かす・労働	262
9	つらい	215
10	やりがい	213
11	義務	191
12	疲れる	187
13	楽しい	166
14	しんどい	150
15	苦しい	133
16	責任	115
17	我慢	114
18	会社	111
19	正社員・正規雇用	106
20	汗	86
21	家族を養う	82
22	社会の役に立つ	81
23	社会参加	77
24	面倒臭い	75
25	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	67
26	ストレス	65
27	頑張る・頑張り・頑張れ	63
28	人生	60
29	日常	59
29	(誰かの)役に立つ	59
29	繁忙	59
32	時間	56
33	イヤだ・辞めたい	52
34	一生懸命	51
34	キツイ	51
34	アルバイト・パート・フリーター	51
37	残業	45
38	健康	39
38	定年	39
40	人との繋がり・コミュニケーション	38
40	社会人	38
42	サラリーマン	37
43	ブラック企業	35
44	通勤	34
45	生涯	33
46	当たり前	29
46	生活費	29
48	家族	26
48	必要	26
50	安定	24
50	成長	24
50	自己実現	24

2014年 n=11,839

順位	ワード	件数
1	報酬	2,397
2	生活	1,208
3	お金を稼ぐ為の手段	885
4	仕事・仕事がある	597
5	大変	409
6	生きる・生きていく	382
7	生きがい	295
8	つらい	278
9	体を動かす・労働	259
10	やりがい	230
11	疲れる	197
12	義務	189
13	しんどい	186
14	苦しい	157
15	我慢	150
16	楽しい	132
17	会社	130
18	正社員・正規雇用	126
19	責任	101
20	(誰かの)役に立つ	94
21	社会参加	88
22	汗	86
23	社会の役に立つ	77
24	面倒臭い	73
25	家族を養う	72
26	繁忙	70
26	ストレス	70
28	残業	69
29	アルバイト・パート・フリーター	68
30	日常	67
31	時間	60
32	人生	58
33	頑張る・頑張り・頑張れ	55
34	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	49
34	キツイ	49
34	定年	49
37	イヤだ・辞めたい	45
37	低賃金・給料が安い・給料が上がらない	45
39	人との繋がり・コミュニケーション	37
39	生活費	37
41	社会人	34
42	通勤	33
43	一生懸命	32
44	健康	31
44	家族	31
44	サラリーマン	31
44	生涯	31
48	ハローワーク	27
48	社畜	27
50	自己実現	26
50	税金	26

2015年 n=5,503

順位	ワード	件数
1	報酬	1,098
2	生活	524
3	お金を稼ぐ為の手段	345
4	仕事・仕事がある	282
5	大変	197
6	生きる・生きていく	165
7	つらい	143
8	生きがい	136
9	体を動かす・労働	124
10	疲れる	118
11	しんどい	97
12	義務	91
13	やりがい	87
14	苦しい	86
15	我慢	57
16	楽しい	56
17	会社	51
18	責任	48
19	正社員・正規雇用	45
20	社会参加	44
21	面倒臭い	43
22	汗	42
23	イヤだ・辞めたい	40
24	社会の役に立つ	36
25	ストレス	35
26	日常	31
27	(誰かの)役に立つ	30
28	繁忙	29
28	人生	29
30	頑張る・頑張り・頑張れ	28
30	キツイ	28
32	残業	26
33	家族を養う	24
33	一生懸命	24
35	人との繋がり・コミュニケーション	23
35	定年	23
37	健康	21
37	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	21
39	時間	20
39	生活費	20
41	アルバイト・パート・フリーター	19
42	サラリーマン	18
42	転職	18
44	当たり前	17
45	充実感	15
46	必要	14
47	自立	13
47	真面目	13
47	働きたくない	13
50	通勤	12

2017年 n=5,624

順位	ワード	件数
1	報酬	1,042
2	生活	522
3	お金を稼ぐ為の手段	341
4	仕事・仕事がある	284
5	大変	193
6	つらい	176
7	生きる・生きていく	160
8	生きがい	126
9	体を動かす・労働	117
10	しんどい	111
11	苦しい	105
12	やりがい	101
14	義務	70
15	楽しい	62
16	我慢	52
17	会社	50
18	働き方改革	48
19	社会参加	46
19	イヤだ・辞めたい	46
21	責任	45
21	面倒臭い	45
23	キツイ	40
24	残業	37
25	ブラック企業	34
26	頑張る・頑張り・頑張れ	33
26	ストレス	33
28	正社員・正規雇用	32
29	(誰かの)役に立つ	30
30	家族を養う	29
30	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	29
30	繁忙	29
30	人生	29
34	社会の役に立つ	28
34	過労・過労死	28
36	時間	26
37	日常	23
37	アルバイト・パート・フリーター	23
39	汗	20
40	生活費	18
40	社畜	18
42	定年	17
43	税金	16
44	健康	15
44	当たり前	15
44	生涯	15
44	社会人	15
48	人との繋がり・コミュニケーション	14
48	一生懸命	14
50	ワークライフバランス	13
50	奴隷	13
50	サラリーマン	13

2018年 n=6,983

順位	ワード	件数
1	報酬	1,374
2	生活	637
3	お金を稼ぐ為の手段	473
4	仕事・仕事がある	334
5	大変	267
6	生きる・生きていく	266
7	つらい	174
8	体を動かす・労働	146
9	疲れる	132
10	生きがい	129
11	しんどい	122
12	苦しい	110
13	やりがい	108
14	義務	94
15	働き方改革	91
16	楽しい	90
17	我慢・忍耐	68
18	社会参加	63
19	責任	60
19	イヤだ・辞めたい	56
21	ストレス	50
21	面倒臭い	48
23	残業	47
24	頑張る・頑張り・頑張れ	46
25	キツイ	42
26	人生	40
27	正社員・正規雇用	39
27	会社	39
29	家族を養う	38
29	(誰かの)役に立つ	38
31	社会の役に立つ	37
32	繁忙	36
33	ブラック企業	35
34	生活費	35
35	日常	32
36	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	29
37	汗	27
38	アルバイト・パート・フリーター	26
38	定年	26
38	転職	26
41	時間	24
42	働きたくない	23
43	成長	20
44	社会人	18
45	生涯	17
45	通勤	17
47	ワークライフバランス	16
47	当たり前	16
47	社畜	16
47	過労・過労死	16

2019年 n=5,467

順位	ワード	件数
1	報酬	1,017
2	生活	456
3	お金を稼ぐ為の手段	417
4	仕事・仕事がある	297
5	大変	195
6	生きる・生きていく	187
7	つらい	142
8	体を動かす・労働	135
9	働き方改革	125
10	疲れる	107
11	生きがい	94
12	しんどい	94
13	やりがい	88
14	苦しい	84
15	義務	83
16	楽しい	60
17	会社	47
18	責任	40
19	イヤだ・辞めたい	39
19	我慢	38
21	残業	38
21	社会参加	37
23	面倒臭い	37
24	正社員・正規雇用	35
25	(誰かの)役に立つ	33
26	生活費	33
27	社会の役に立つ	32
27	頑張る・頑張り・頑張れ	30
29	自分の力で稼ぐ・自分の食い扶持を稼ぐ	29
29	ストレス	28
31	人生	28
32	改革	28
33	日常	26
34	家族を養う	26
35	キツイ	26
36	定年	24
37	時間	22
38	社畜	21
38	働きたくない	20
38	人との繋がり・コミュニケーション	18
41	ブラック企業	18
42	低賃金・給料が安い・給料が上がらない	18
43	休暇・休日・余暇	17
44	だるい	17
45	一生懸命	16
45	当たり前	16
47	健康	15
47	ワークライフバランス	15
47	繁忙	15
47	アルバイト・パート・フリーター	15

※2013年～2019年リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人5000～1万人

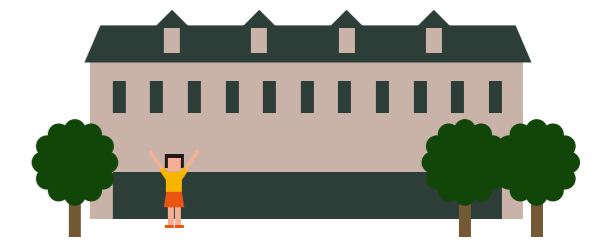
働くと聞いて思い浮かぶキーワードの自由回答結果をコード化し、単一回答にて件数を集計 ※ポジティブなワードは、 ネガティブなワードは

Report④ そもそも「働く喜び」って何？「収入」以上に「環境」に喜びを実感

働いている人たちが、具体的にどのような事実に対して喜びを感じているのか？を分析した結果(デプスインタビュー27人、ネットモニター調査約3500人)、人々が働く喜びを感じている「事実」は「収入」「信頼関係」「学び・成長」「役割・居場所」「快適な環境」「お客様」「社会的影響」の主に7因子に分類されることがわかりました。

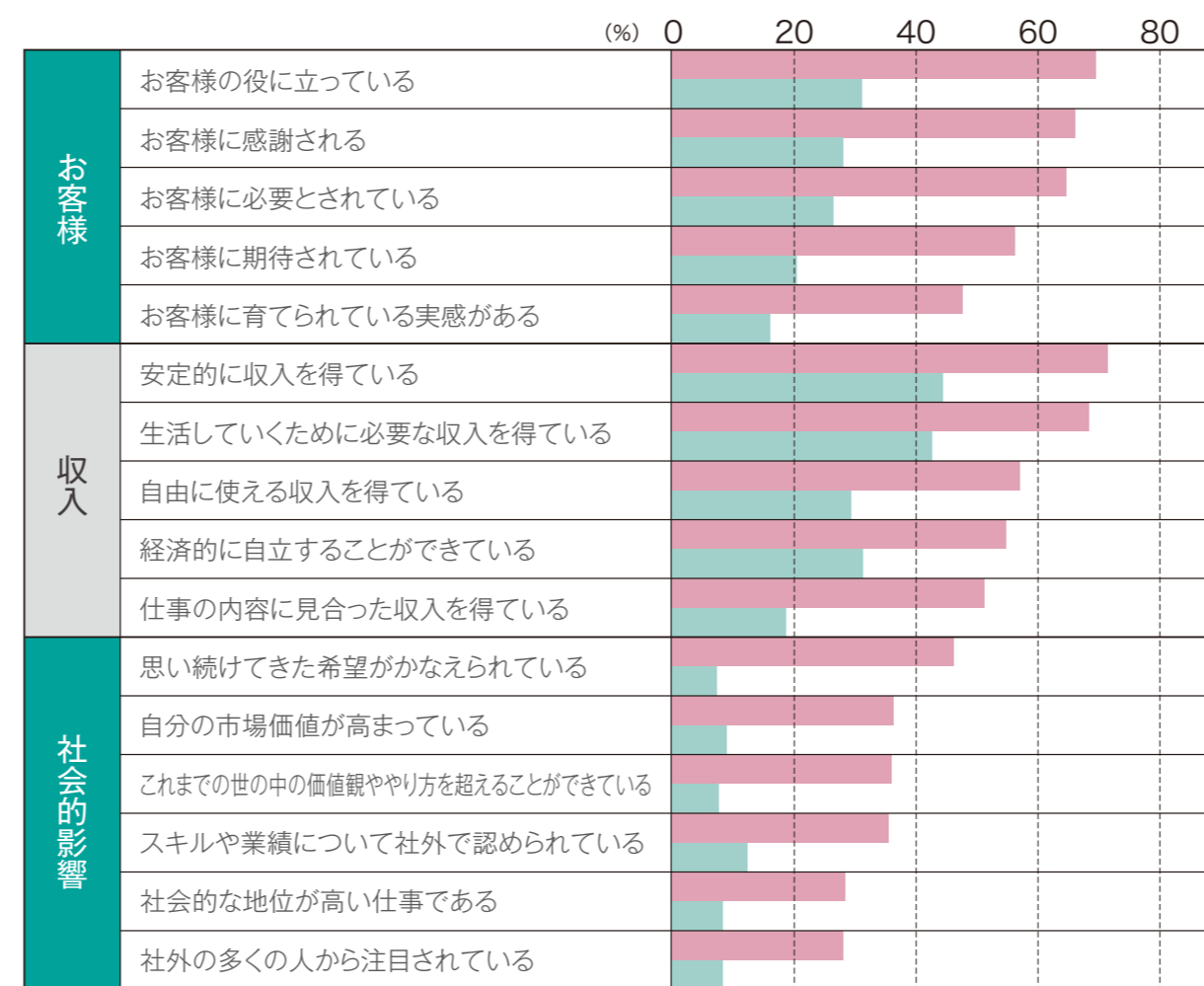
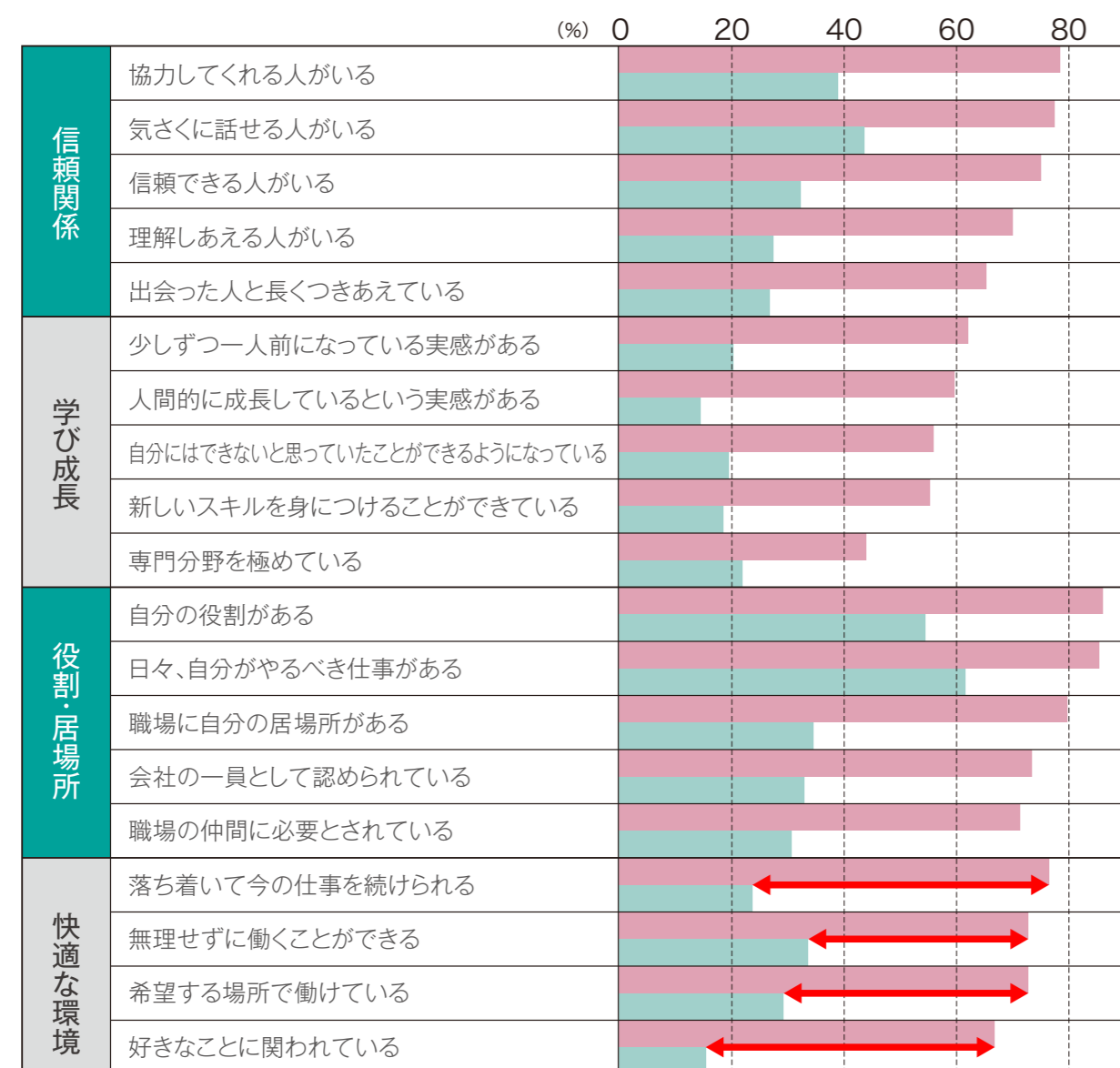
人それぞれが感じている喜びはもちろん様々ですが、全体傾向として「快適な環境」であるという事実に対して喜びを感じている人が多く、たとえば「収入」よりも「快適な環境」であるかどうかのほうが、働く喜びに影響を与えています。

また、2015年からの経年変化を見ると、最も増加傾向にあるのも「快適な環境」でした。



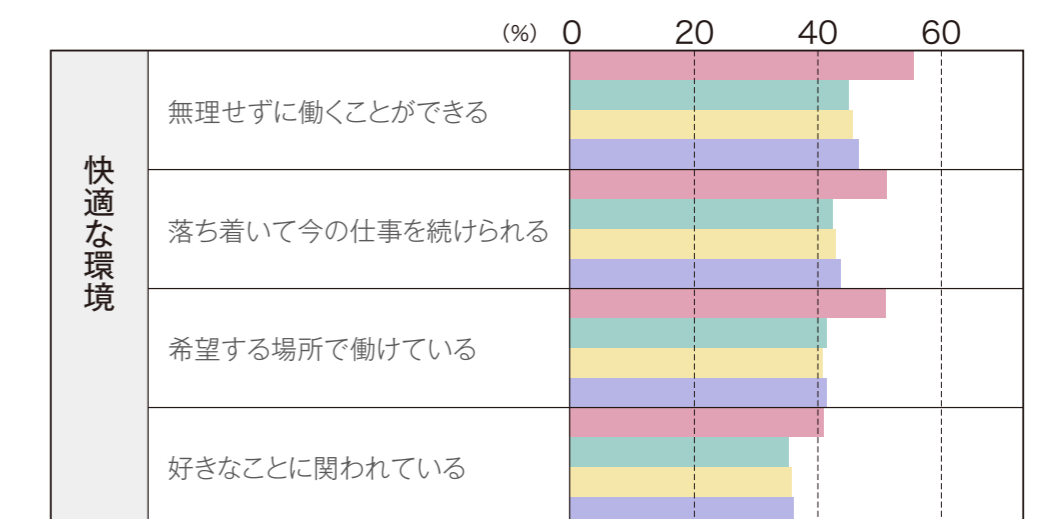
どのような「働く喜び」を感じているのか？

■ 喜びを感じている人 (n=2,434) ■ 喜びを感じていない人 (n=1,823)



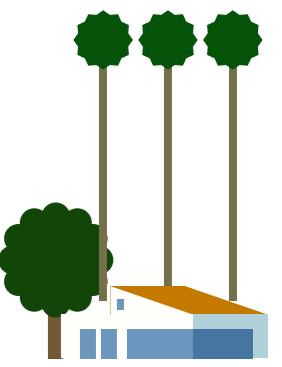
最も増加傾向にある「快適な環境」の経年変化

■ 2019年 (n=5,467) ■ 2017年 (n=5,624) ■ 2016年 (n=5,583) ■ 2015年 (n=5,503)



※2015年～2019年リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人5000人

Report⑤



衛生要因のみならず、「職場環境」「自分の持ち味の共有・発揮」「働く喜びは自分で増やせる」という主体性が、働く喜びの重要な要因

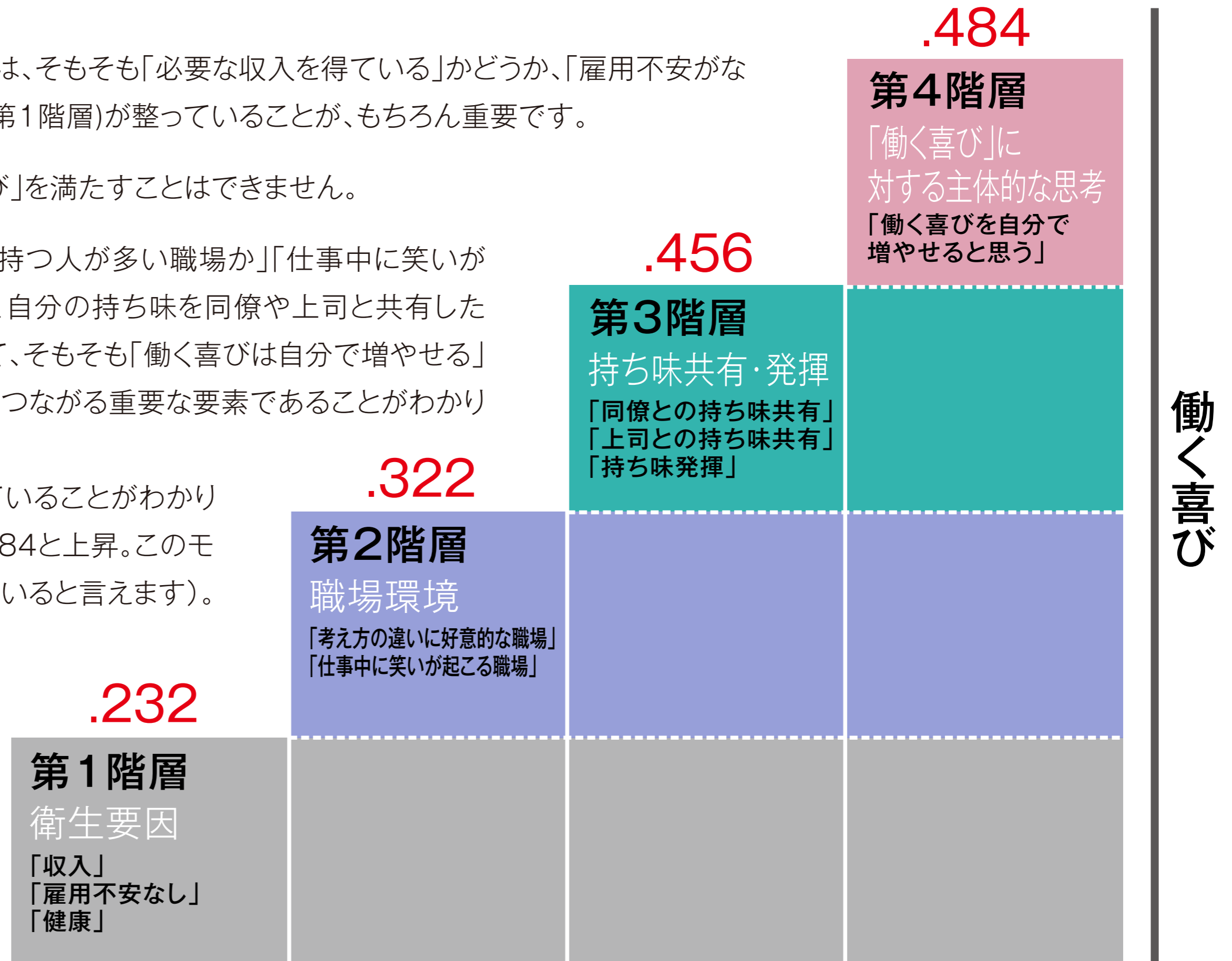
働いている人たちが実際に働く喜びを実感するためには、そもそも「必要な収入を得ている」かどうか、「雇用不安がない」かどうか、「健康である」かどうか、という衛生要因(第1階層)が整っていることが、もちろん重要です。

ただ、衛生要因が整っていても、それだけでは「働く喜び」を満たすことはできません。

たとえば「お互いの考えの違いに対して好意的関心を持つ人が多い職場か」「仕事中に笑いが起こるような職場か」といった職場環境(第2階層)や、自分の持ち味を同僚や上司と共有したり、持ち味を発揮できているかどうか(第3階層)、そして、そもそも「働く喜びは自分で増やせる」と思っているかどうか(第4階層)、働く喜びの実感につながる重要な要素であることがわかりました。

階層が重なるにつれて、「働く喜び」をよりよく説明していることがわかります。(働く喜びの説明力が、.232→.322→.456→.484と上昇。このモデルでは4つの要素が「働く喜び」の約48%を構成していると言えます)。

どのような状況下にあっても「収入」「雇用不安なし」「健康」という衛生要因だけに目を向けるのではなく、職場環境や、自分の持ち味を発揮できているかどうか、「働く喜びは自分で増やせる」という主体的な思考にこだわるのが、実際に働く喜びの実感に繋がるのだと言えます。



※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象:15歳~64歳の男女働いている人5,467人

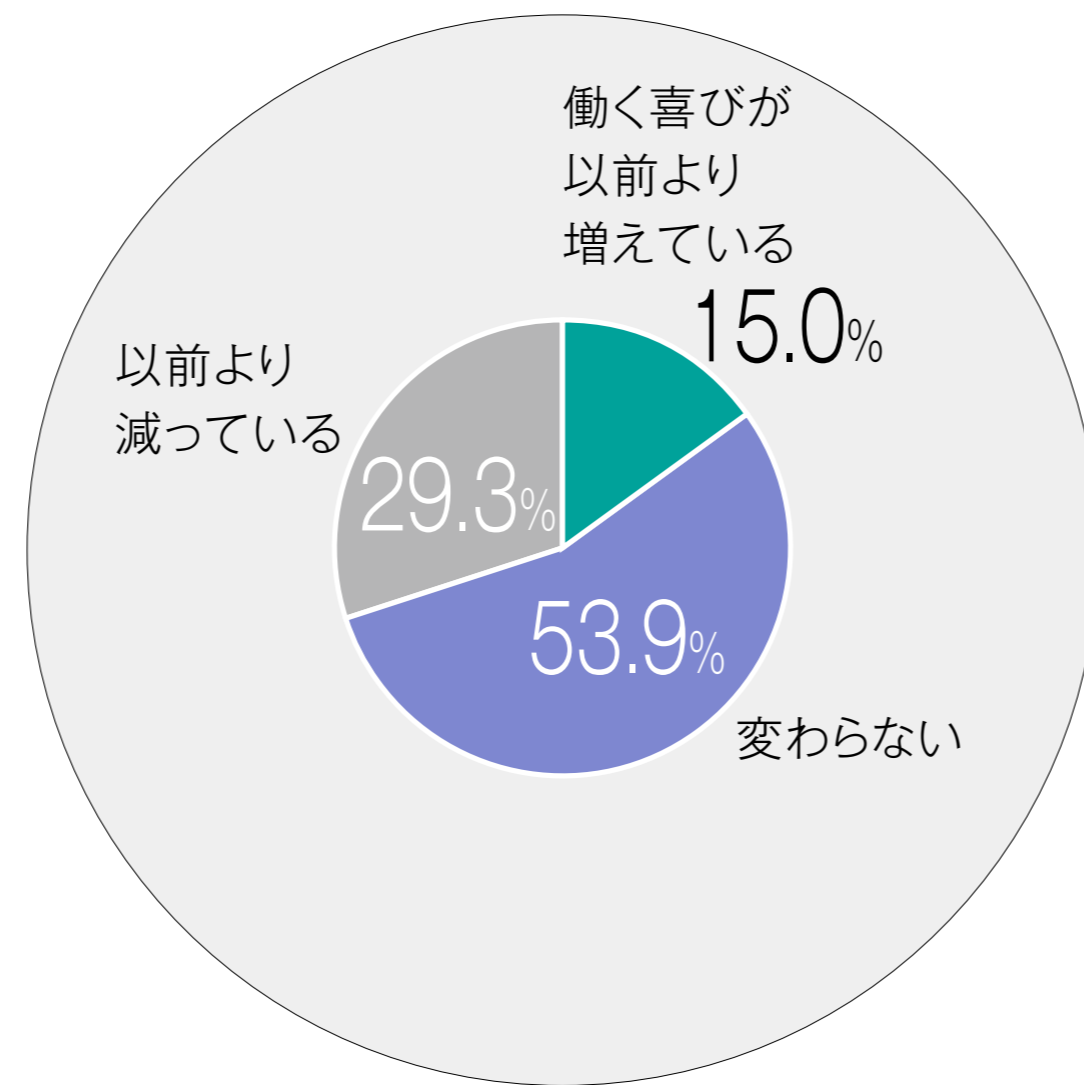
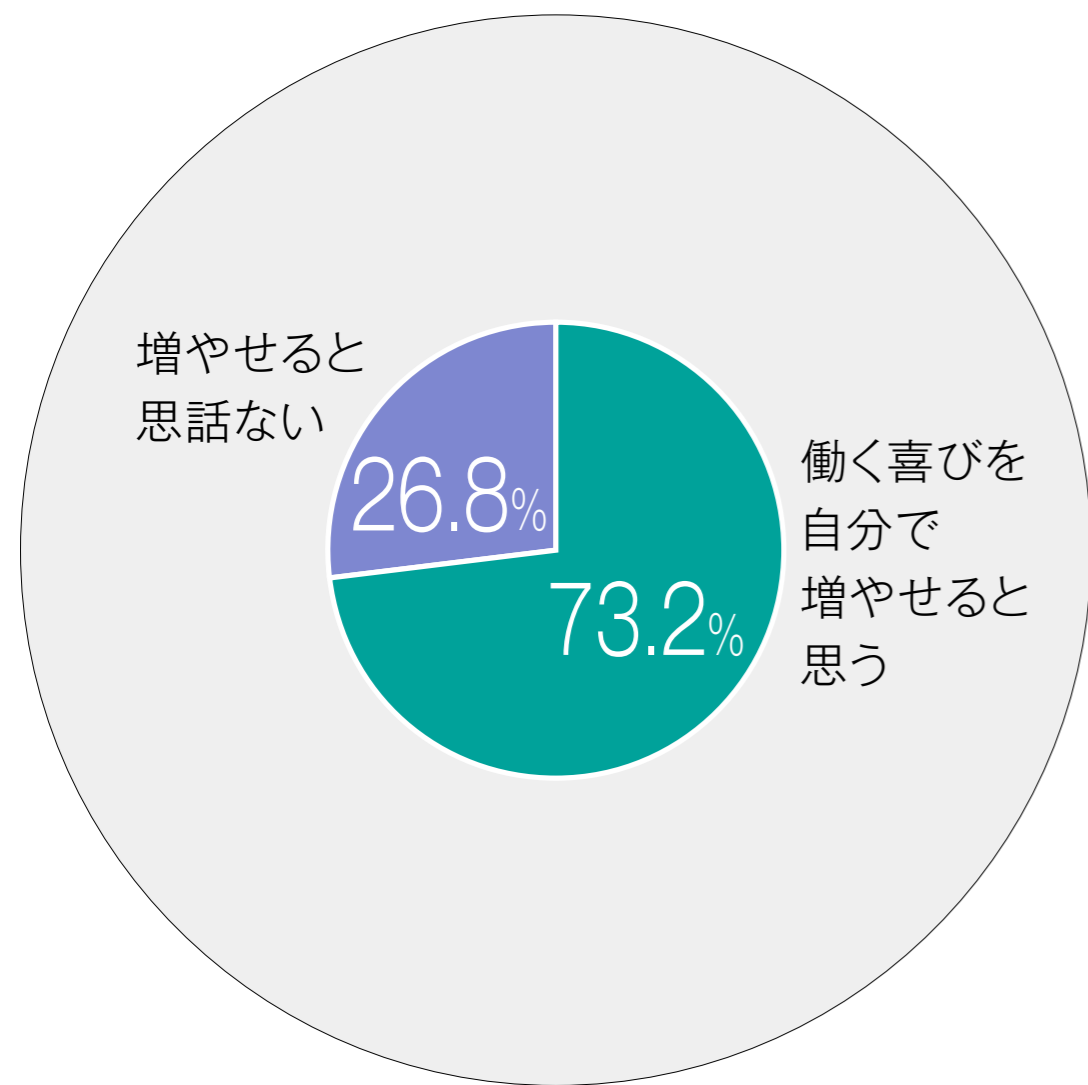
注:働く喜びに対する説明力を検討するため、第1階層から第4階層の階層的重回帰分析を行った。表中の数字は標準化係数β。変化量のΔは、それぞれ第1階層から第2階層で.091、第2階層から第3階層で.134、第3階層から第4階層で.029となり、それぞれ1%有意であった。

Report⑥

約7割の人が、「働く喜び」を自分で増やせると感じている

「働く喜び」を自分で増やせると思う人は73.2%で、実際に「働く喜び」が以前よりも増えた人は全体の15%でした。

また、「働く喜び」の増加に影響している主な要因は「自己成長」「仕事内容の変化」「収入の変化」「先輩・同僚とのコミュニケーション」「働き方の変化」「上司とのコミュニケーション」であることがわかりました。

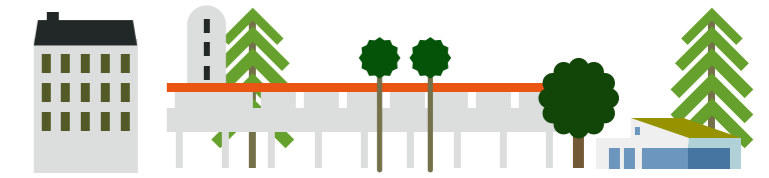


働く喜びの増加に影響を与えた要因

	(%)	0	10	20	30	40
自己成長	30.0					
仕事内容の変化	28.0					
収入の変化	27.0					
先輩・同僚とのコミュニケーション	26.0					
働き方の変化	21.0					
上司とのコミュニケーション	18.0					
労働時間の変化	15.0					
自分の体力・健康状態の変化	14.0					
家族の状態	13.0					
転職	12.0					
自分の業績	11.0					
上司からの期待	11.0					
お客様関係	10.0					
業務量の変化	10.0					
職種の変化	10.0					
職場の方針・戦略	10.0					
昇進・昇格	10.0					
人事評価の変化	9.0					
雇用形態の変化	8.0					
会社の業績	7.0					
上司交代	6.0					
同僚の入れ替わり	5.0					
異動	4.0					
パワハラ	3.0					
ノルマの変化	2.0					
経営者交代	1.0					
セクハラ	1.0					
その他	1.0					



※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象:15歳~64歳の男女働いている人5,467人



今の環境の中で、自分で「働く喜び」を増やすポイントは (1) 自分の持ち味を生かすこと (2) 「仕事に対する自分の気持ち」を同僚に開示すること

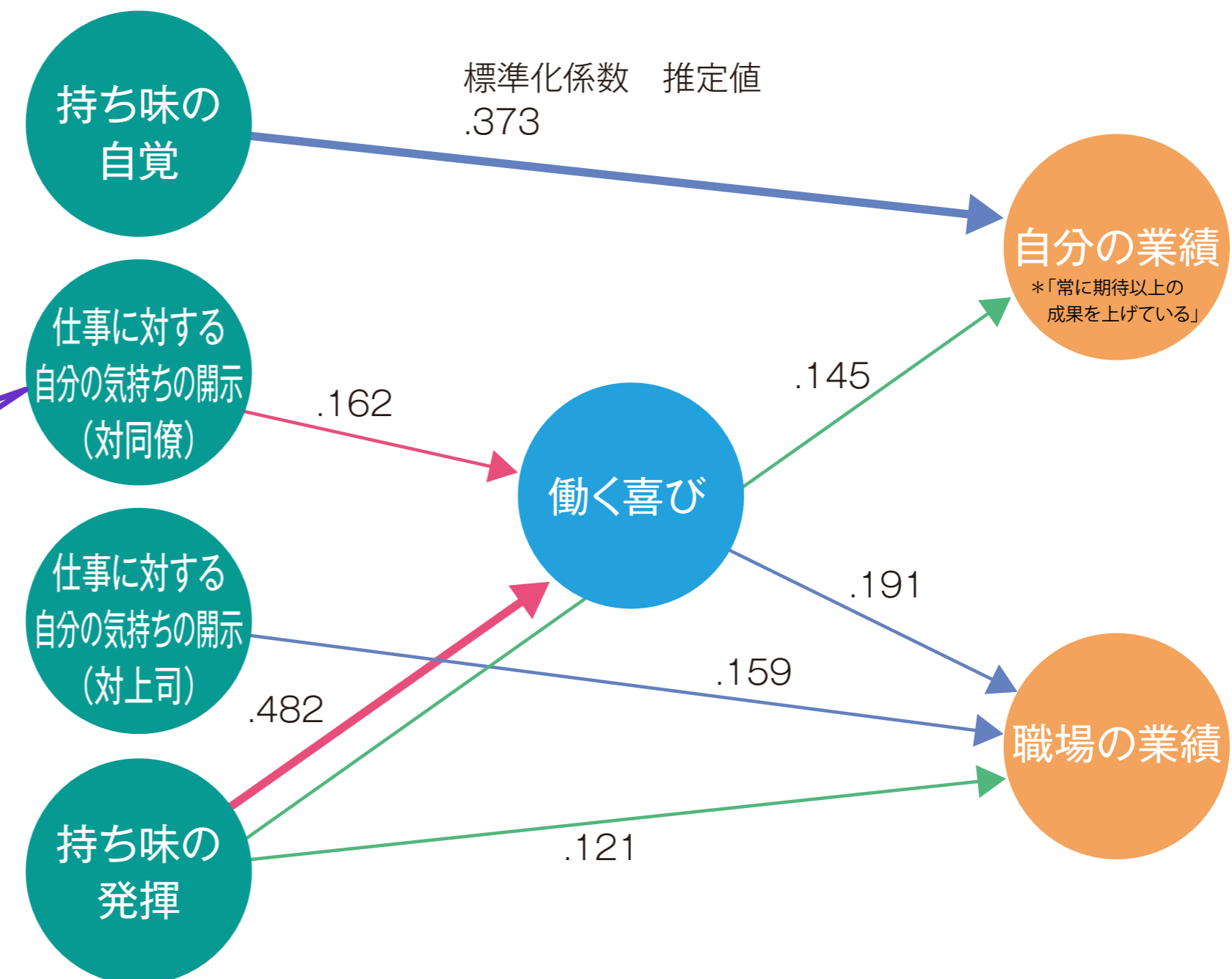
では、いま自分が置かれている環境の中で、自分で「働く喜び」を増やそうとした時には、いったい何に注力すればよいのか？
現在の自分自身が関与できる要因と「働く喜び」の関係性を見てみると、「仕事に対する自分の気持ち」を、職場の同僚に対して開示することが(上司に開示するよりも)「働く喜び」に影響しており、さらには「職場の業績」にもプラスの影響を与えることがわかりました。
また、現在の仕事の中で、自分ならではの持ち味を生かすことができているかどうか、「働く喜び」に強く影響しています。
また「仕事に対する自分の気持ち」の開示の中でも、とくに「自分がやりがいを感じる仕事について」同僚に開示していることは、自分の持ち味発揮にもつながっています。

「仕事に対する自分の気持ち」の開示とは？

職場の同僚に対して 以下のような話をしているかどうか

- ・仕事における自分の強みと弱みについて
- ・やりがいを感じる仕事について
- ・仕事ぶりを他の人(上司、同僚、夫・妻など)から賞賛されたときの自分の気持ちについて
- ・現在、興味を持って勉強していることについて
- ・現在持っている目標や将来の希望について
- ・生きがいや充実感を感じることにについて
- ・余暇の過ごし方について
- ・自分が趣味としていることについて

現在の仕事の中で、
自分ならではの持ち味を生かすことができているか

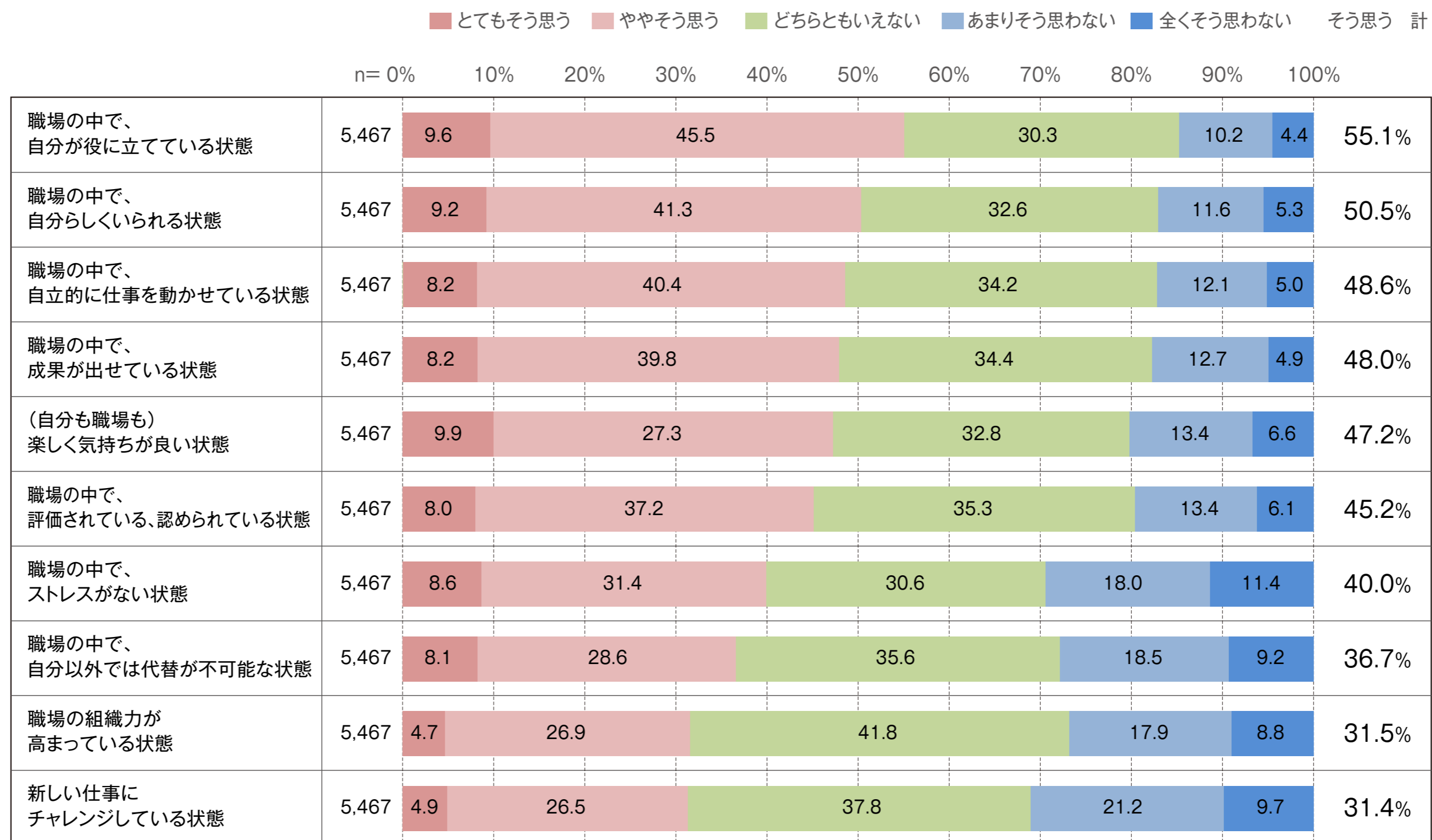


Report⑧

持ち味を生かしているとは、「自分が役に立てている」「自分らしくいられる」「自立的に仕事を動かしている」状態

「自分ならではの持ち味を職場の中で生かすことができる」のは、「職場の中で自分が役に立てている」「職場の中で自分らしくいられる」「職場の中で自立的に仕事を動かしている」状態であると捉えている人が多いようです。

(自分ならではの持ち味を職場の中で生かすことができる)のはどのような状態だと思うか)



※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象:15歳~64歳の男女働いている人5,467人

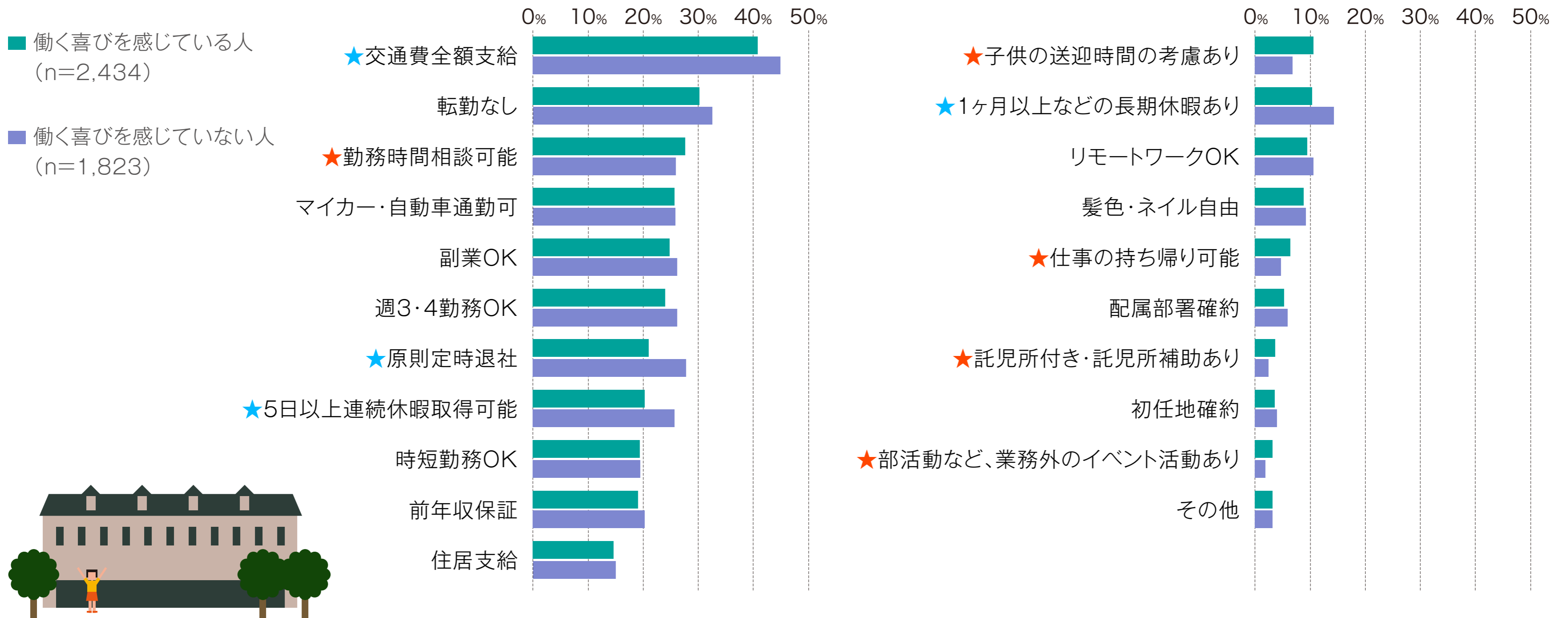
Report⑨

「働く喜び」を感じている人は、より自分に合った「快適な環境」を求めている

働く喜びを感じている人と感じていない人では「新たな職場・転職先を探すことになった時に望む条件」の内容に差があることも見えてきています。

働く喜びを感じている人は「勤務時間の考慮」「仕事持ち帰り可」「託児所」「イベント活動」など(★)より自分に合った仕事上の「快適な環境」を獲得しようとする傾向があり、働く喜びを感じていない人は「休暇」「交通費」「定時退社」など(★)仕事以外の条件向上を望む傾向があるようです。

新たな職場・転職先を探すことになった時に望む条件

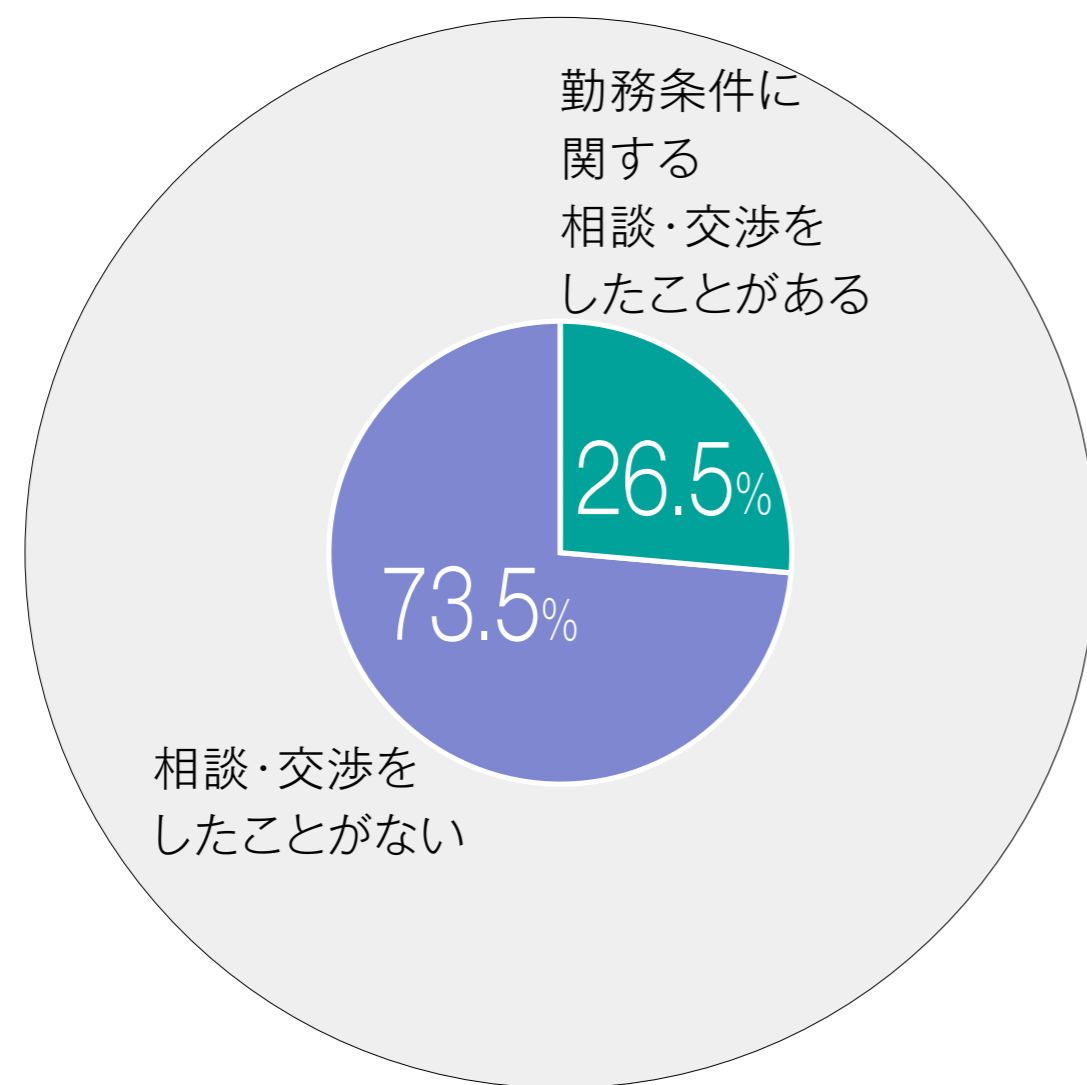


※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人 5,467人

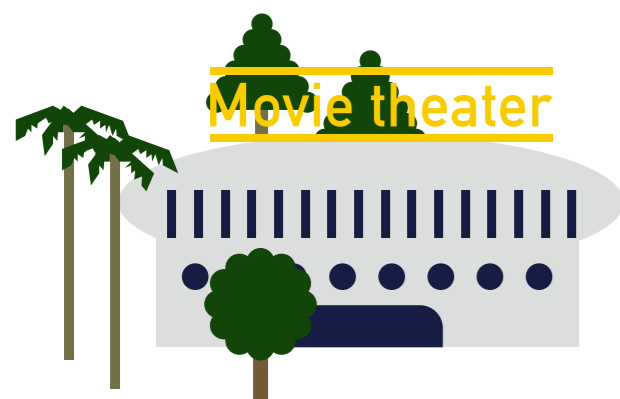
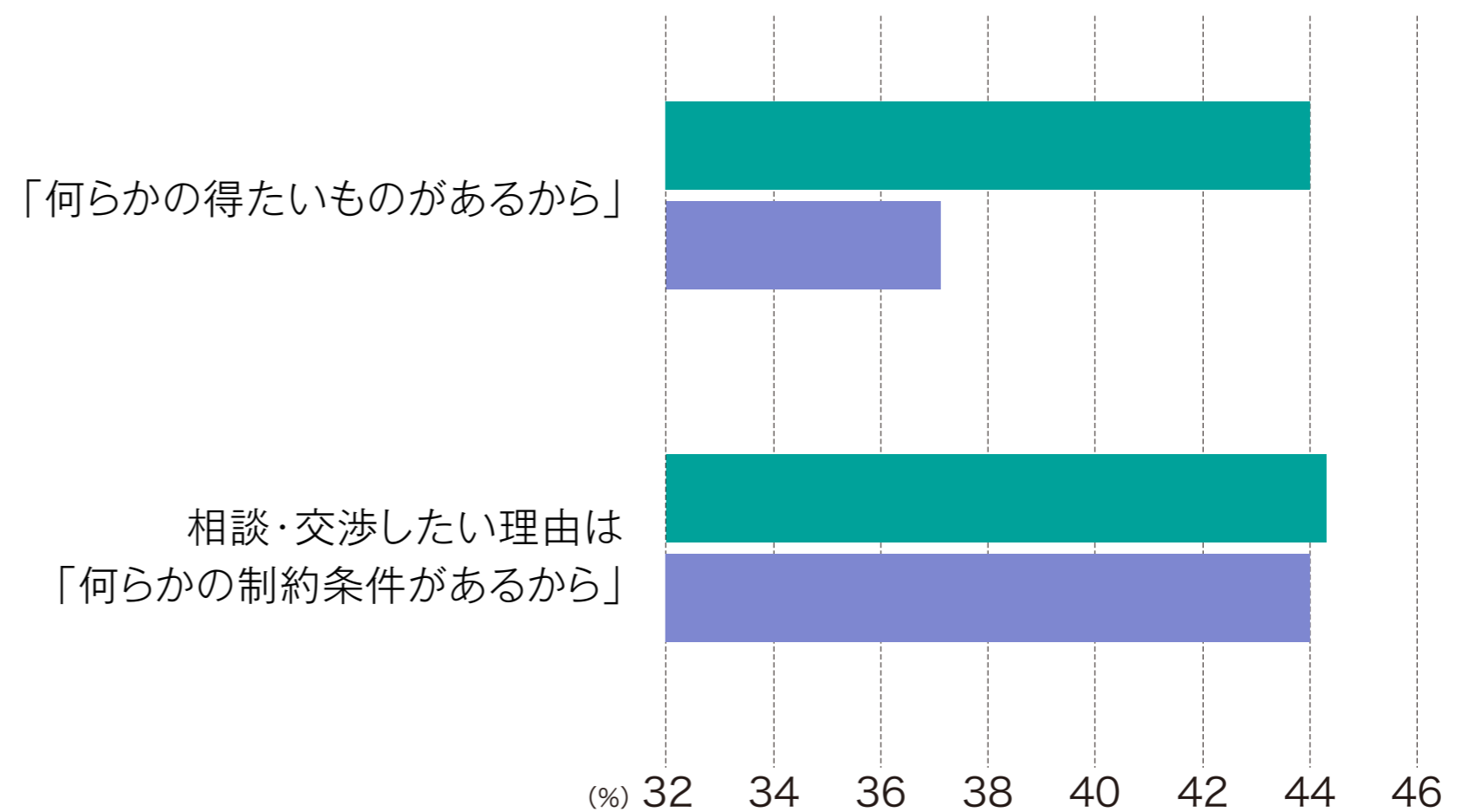
Report⑩

いま、就業者の約4人に1人が、自分なりの「働き方」を掴もうとしている

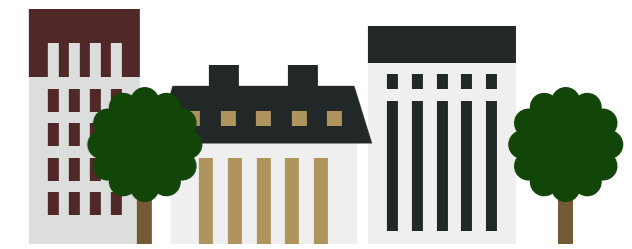
会社に対して、実際に「自分が希望する勤務条件の相談・交渉をしたことがある」人は、就業者全体のうち26.5%で、約4人に1人が「自分の望ましい働き方」を獲得するための勤務条件の相談・交渉をしており、2018年の22.2%より増加。また2018年は、育児中など何らかの「制約条件がある」から相談・交渉をするという人が多い状況でしたが、2019年には学びの時間など何らかの「得たいものがあるから」相談・交渉をする人の割合が増加しています。



勤務条件の相談・交渉をしたい理由 2019年 2018年



※2019年12月リクルートキャリア「働く喜び調査」より 対象：15歳～64歳の男女働いている人5,467人のうち、自営業を除く5,044人



多様化する「それぞれの望ましい働き方」

かつて日本が成長期であった頃、「働く」ということに関して、例えば「高年収であること」「大企業で働くこと」「正社員で働くこと」「出世を目指すこと」を是とする画一的な共同幻想が存在しました。

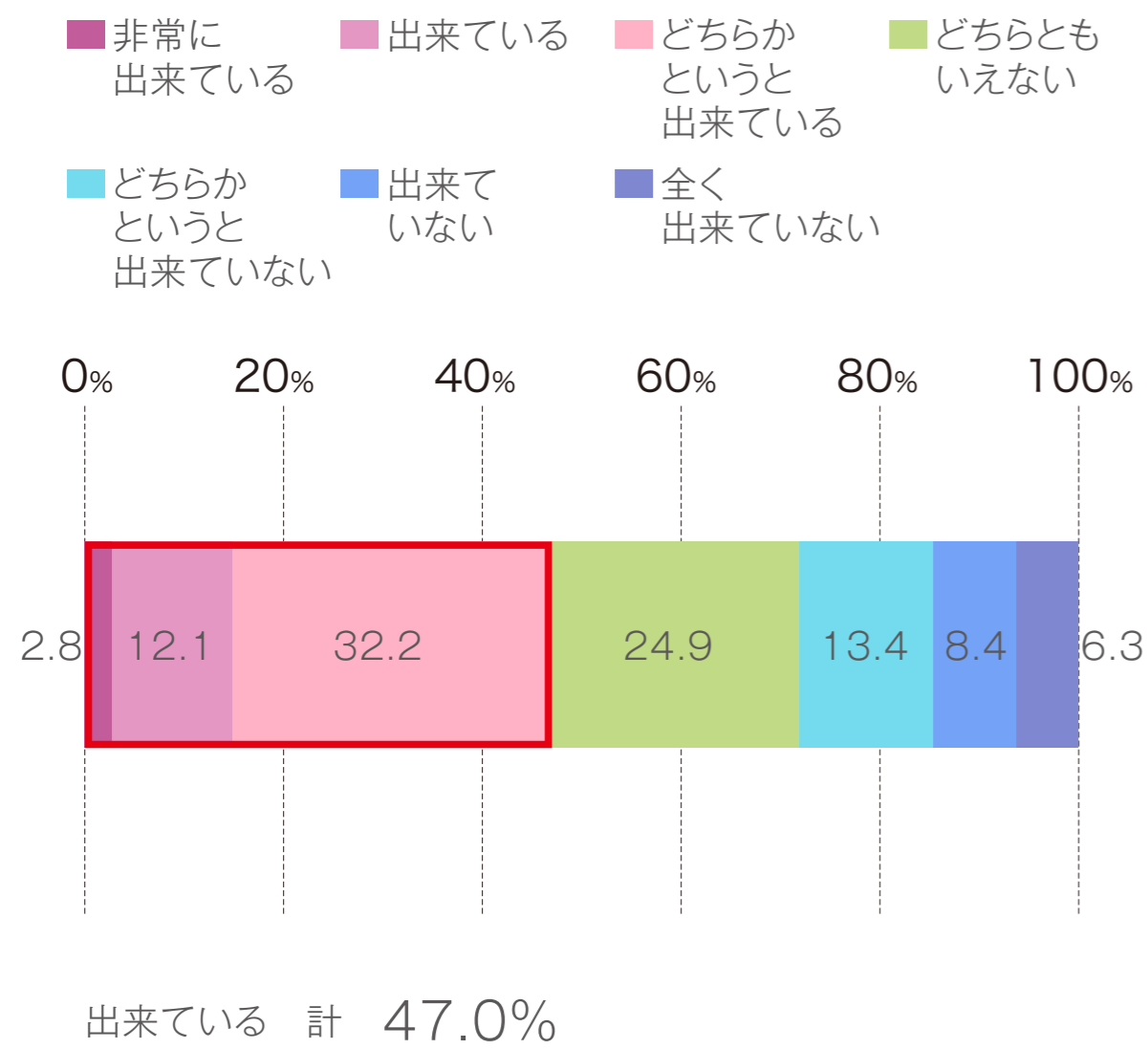
しかし、成熟化社会となった今では、人生における「働く」というものの重みも人それぞれ違ってきているようです。

現在「自分の望ましい働き方ができている」人は47%で、2018年の43.2%から増加。

働く場所や時間など、個人が望ましいと感じる働き方が多様化しているという事実も見えてきています。

「企業に従う」「みんな同じ」ではなく、「自分で選ぶ」「みんな違っていい」時代へ、今まさに移り変わろうとしています。

自分の望ましい働き方ができているか？



望ましい働き方は人それぞれ

	A	B	
限られた時間の中で、無理せずに働くことができること	80.5	19.5	時間に縛られず、思う存分働くことができること
1つの仕事に集中して働くことができること	70.5	29.5	副業・兼業で幅広く働くことができること
仕事を優先できること	27.9	72.1	仕事以外の事を優先できること
昇進・出世できること	42.3	57.7	昇進・出世せずに今のポジションで働けること
有名・大手企業で働けていること	30.5	69.5	企業名・企業規模にこだわらず働けていること
今の仕事を長く続けられること	78.5	21.5	新しい仕事に挑戦できること
職場(オフィス等)で働けること	53.9	46.1	自分の好きな場所で働けること(在宅勤務など)
自分のためになることがやれること	59.3	40.7	他者や社会に役立つことがやれること
多くの収入を得るためには、多少のことは犠牲を払ってもいい	44.8	55.2	収入より優先したいことがある
スケジュールは、ほぼ自分の裁量で組むことができること	72.6	27.4	決められたスケジュール通りに、着実にやっていくことができること

RECRUIT リクルートキャリア

働く喜び調査報告書

2020年6月 株式会社リクルートキャリア発行
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
©Recruit Carrer Co.Ltd. All rights reserved

■ 働く喜び調査設計・分析プロジェクトメンバー
◎前原 佳世子(リクルートキャリア)
津賀 史紀(リクルートキャリア)
加藤 茂博(リクルートキャリア)
辰巳 哲子(リクルートワークス研究所 主任研究員)
信時 裕(株式会社アンド・ディ/株式会社HR-Research)
丸山 淳市(中京大学)

■ インターネット調査・分析
株式会社インテージ

■ レポート制作(Art direction)
K's design 小林繁則